

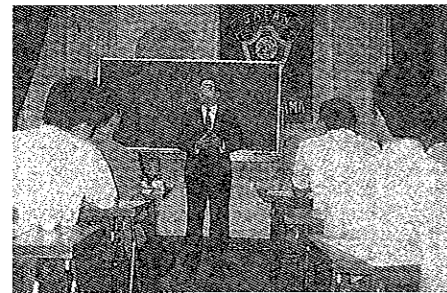
1990 (平成2年)
会員数61名

39代理事長
中井 博司



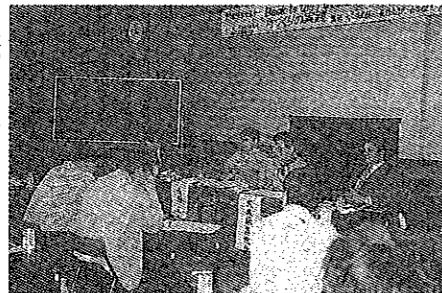
平成2年度(社)八幡浜青年会議所は「今私たちが果たすべき役割を見出す時、変化への予見と対応、対応への勇気と行動」という基本理念の基3つの基本方針を掲げ、事業を展開した。①新しい地域社会の理念を創造する。②新しいJC運動針路を明確にする。③周年事業の調査研究。本年は、40周年を翌年に控え重要な年度である。会員の中では、周年事業を経験していないメンバーが多数を占め、周年事業に対する意識から掘り下げなければならなかった。

そして、特別企画室を設置し、各周年事業の資料の収集、メンバー意識の調査、40周年に対しての事前準備等を行うものとした。まず初めは5月例会において30周年実行委員長であった伊藤禮司OBを招いて30周年の思い出を語って頂き現役メンバーに対する意識づけとした。5月20日青少年開発委員会によって、ふるさと発見「ザウォーク」を実施、市内の小学校4、5、6年生を対象に、自分達の郷土の特色や文化をクイズ形式で出題し、自分達の目と耳と足で、ふるさとに対する認識を深めてもらおうというもので、三崎町から瀬戸町堀切大橋17.6kmにて開催し70名の児童の参加を得た。



LD道場話し方教室
日本創造教育研究所喜田先生

5月12日第1回経営セミナーを「町づくりの実践」と題して開催、新居浜より、長野、大久保、白石、森賀4氏を招き講演会を行い、外から見た八幡浜に対しての率直な意見等を頂き、認識を新たにすることができた。



経営セミナー
「町づくりの実践」

7月7日・8日の両日自衛隊松山駐屯地において、体験入隊LD道場、パートIを開催、真夏の日差しの下、サーキットトレーニングあり、規律訓練ありの第1日目、その夜の居酒屋談義を乗り切った翌日は、歩腹前進ありと、これからハードスケジュールの夏場を乗り切る為のチームワークと体力を強固なものとした。



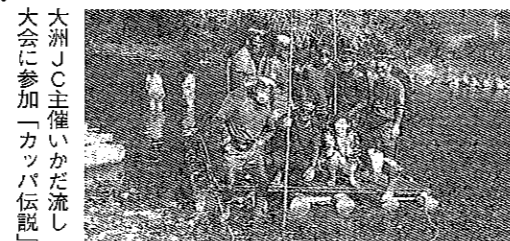
39(サンキュー)チャリティーオークション
商店街にて

7月28日OBとの親睦会、日中は、じゃがいもコンペを行い、夕方懇親会及び表彰式を合同で行った。40周年を控え何かと苦言を呈するOBに対し、お酒の力で柔らげようという作戦は見事の中した。8月2日3日、合唱団は花博記念全日本大阪大会へ参加、8月8日には、臨時総会により、第40代理事長予定者、菅重之助君が決定、又、40周年の貴重な戦力となる仮入会者5名も決定した。

8月12日第3回八幡浜みなと夏祭り、てやてやフェスティバル開催、本年は、踊り、PR、イベントと三部会制とし、PR部会では、夜市での踊りデモンストレーション、街宣車での市内外PR、踊り部会は、踊り出張指導、イベント部会ではてやてやランドと北浜通りの歩行者天国での出店、熱気球、パギーカー等の新しい試みを用意して、各種規制に対する許可申請も取れ、前日は夜遅くまで準備作業を行い万全の体制であったが、当日てやてやランドオープン10時に無情の豪雨!。しかし翌日に順延となり、お手伝い下さった各種団体の協力のもと、てやてやランドは規模を縮小して、又、踊り競演大会は予定通り開催する事ができた。本年で第3回を数える夏祭りも、『TEYA TEYA I WANT YOU』の曲とともに八幡浜の夏の行事として定着して来たのではないだろうか。

8月26日忙しかった夏を乗り切り臈川町鹿鳴園にて家族会を行い会員家族間の親睦をはかった。

9月8日「39(サンキュー)チャリティーオークション」「39感謝の夕べ」開催、40周年を迎えるにあたり、JCが地域に親しまれ、地域に根ざした活動を展開する会員の意識づくり、そして家族に対する感謝の意味としてメンバーが、各家庭から持ちよった品物を商店街の特設ステージより競売を行った。当日は八日市と重なり大盛況、約13万7千円の収益を上げ、福祉推進にと、市社会福祉協議会に寄付した。



大洲JC主催いかだ流し
大会に参加「カップ伝説」

夕方からはイートにて会員家族間での夕食会を行った。

10月4日LD道場パートII、話し方教室へ、喜田寛先生を招き実践的話し術の講義を受けた。



ザウォーク

12月8日、年末総会により、菅重之助以下次年度理事者及び、40周年実行委員会が正式に発足した。

1991 (平成3年)
会員数60名

40代理事長
菅 重之助



平成3年1月4日、来賓171名を迎えて、スポーツセンターサブアリーナにおいて、新年合同名刺交換会を開催、菅重之助代理事長より、創立40周年にあたり本年は、「不感目をそらすなわがまち21」をテーマに行動し、「忠八翁生誕の地、八幡浜」を、全国にアピールして行きたいとの所信が述べられた。その後、懇談に入り会場では、『おめでとうございます、又、40周年宜しくお祈りします』等の挨拶が交わされ、和やかな雰囲気の内にお開きとなった。こうして、我々(社)八幡浜青年会議所40周年の年がスタートした。

1月24日京都会議、菅重之助代理事長、中井40周年実行委員長以下12名にて参加したが、我々にとっては、もう一つの目的を持っての参加であったそれは、京都府八幡市にある飛行神社の訪問である。



「虹の翼」著者吉村昭先生宅訪問

立派な神社であり、博物館でもある同所を目にし、忠八翁の次男である二宮顕次郎氏にお会いし、忠八翁について、



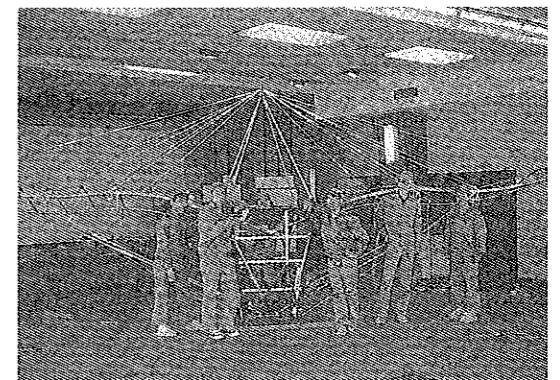
京都八幡市飛行神社にて

多くのお話を伺う事ができ、同じ八幡浜に生まれた者として、偉大な先人に対し、もっと賞賛の意を現すべきではないかと思いを強くしたのであった。1月30日商工会館大ホールにおいて、5名の新入会員を迎えて、入会式及び、新年総会を開催、引き続き行なわれた懇親会は、創立40周年に加え、その中心に、二宮忠八翁を取り上げた事で、内外からの注目を浴び、(社)日本青年会議所若田功副会頭を始め、

非常に多くの来賓、OBの出席を頂き盛況のうちに終了した。2月17日創立記念日例会にて日大野口常夫先生をお招きし、多数のOBを迎え講演会を開催、その中で何の手引き書もない時代に、飛行できる要素である、方向、上昇、推進の原理をすでに発見し、玉虫型として具現化していた事は、すばらしい偉業であると語られた。

2月に入り40周年実行委員会の活動もしだいに具体化して来たPR総務部会では、各委員会ごとに担当地を決めた。

LOMへのPR訪問、パンフレットの作成及び、登録の依頼、式典部会、懇親部会では、公演者の依頼。プログラム並びにスケジュールの決定。記念誌部会は、資料の編集。記念事業部会では、5月のゴールデンウィークを利用して、野口先生より送られて来たパーツを八幡浜工業高校生徒の協力を得て、会員及び一般市民の手によって組み立てるとともに、製作費用の募金の協力を広く市民に呼び掛け、街頭募金並びに市内外の企業への募金依頼を会員総動員のもとで実施していった。



玉虫型飛行器製作中!!

この間、実行委員会全体会も数度に亘り開催され、活発な議論が交わされ、閉会が12時を過ぎる事もあったが、途中誰一人として席を立つ者もなく、周年事業に対する会員相互間の意識統一が計られた。又、青少年開発委員会担当の児童合唱団では、2月11日第17回定期演奏会岡田和子先生追悼公演開催、3月16日卒団式、4月8日入団式、5月11日育成総会を開催、懸案であった新団服作成も決定し、記念式典出演時に披露する事となった。この間、昨年より新港に建築中であった新商工会館が完成、4月9日会員の手により引越作業を行い、真新しい事務所にて活動を開催した。このように多忙な日程を経過しながらも、八幡浜JC会員は、四国の地で初めて40周年を行なうという喜びに燃え、6月23日記念式典が挙行された。

10月20日出島にて多数の観客が見守る中、見事玉虫型飛行器の有人飛行に成功した。

11月12日には「100年後を見据えたまちづくり」ということで、市長、県議、市議会議長をお招きし、多数の出席の中、JC座談会が開催された。年末総会当日に広報委員会が制作した家族のスナップをまじえた家族の肖像が発刊された。

12月6日、年末総会により井上理事以下次年度理事者が正式に決定した。